

平成26年第1回中津川市教育委員会（臨時会）議事録（要旨）

日 時 平成26年1月15日（水） 午後1時30分

場 所 にぎわいプラザ 4-1 会議室

出席委員 小幡 隆徳 松田 幸博 田島 雅子

大井 文高

事務職員	山内事務局長	原文化スポーツ部長
	岩久教育次長兼学校教育課長	大塚教育企画課長
	岡本子育て支援対策監兼幼児教育課長	
	今井文化スポーツ部次長兼生涯学習スポーツ課長	
	辻発達支援センターつくしんぼ所長	小林図書館長
	嶋倉教育研修所長	幸脇阿木高等学校事務長
	田島発達相談室長	山下子育て政策室長
	西尾文化スポーツ施設運営推進室長	末木文化振興課長

会議日程	1 開	会
	2 議	事
	3 閉	会

番 号	議 題	結 果
議第1号	平成26年度中津川市教育委員会主要事業について	承 認
議第2号	中津川市教育委員会附属機関の設置等に関する条例施行規則の一部改正について	承 認

【開 会】

【議 事】

【委員長】議事に入ります。日程第1、選第1号 平成26年度中津川市教育委員会主催事業について、事務局から提案をお願いします。

〔事務局から資料に基づき説明〕

【委員長】ご質問ご意見ございませんか。田島委員。

【田島委員】2の4つ目の教育委員会事業の現地調査の実施は、私たちがいつも出向かせていただく研究発表のことですか。

【教企課長】それも含めてです。今年度は特に私どもから働きかけることはできなかったのですが、特に何か一緒に見ていただくことも企てたいと思っております。

【田島委員】以前、坂下の給食を食べに行きながら、いろいろ説明を聞きに行ったこともありました。ああいうものも含まれるわけですね。

【教企課長】そういうことです。

【委員長】ほかによろしいですか。松田委員。

【松田委員】1の教育長への直行便は、どれぐらいありますか。どんな内容ですか。

【教企課長】建設的な、こうしたらどうかという意見を期待していますが、そういうものはあまりなくて、平成25年は3件ほどだったように思います。苦情的なものが多かったように思います。

【松田委員】4のパソコン関係ですが、最近騒がれていたバイドゥのようなものはネットをやっていると知らないうちに入ってきます。学校関係、行政全般に関して、ちょっと心配です。XPはもう全部ない状態になっていますか。それから、今は子どもたちもスマホをやっていますし、仕事でもパソコンを多く使います。最新のもの、タッチパネル式のものなどを入れていかないと時代に遅れていくと思います。その辺をどう考えていますか。

【教企課長】バイドゥの件です。私ども市職員のパソコンは、余分なものがインストールできないようになっていきます。インストールしようとする「あなたには権限がありません」と出る仕組みになっています。XPを基本ソフトとするパソコンは、今年度ですべて更新を完了します。次にVISTAを更新していく計画です。タッチパネル式のものは、これから時代変わってくると思いますので、教育研修所とも相談させてもらいます。福岡中学校の教頭先生が以前美濃加茂市にみえた頃に、タッチパネル式のタブレットパソコンを積極的に導入された方で、その先生にも相談しながら、タッチパネル式あるいはタブレット型のものを入れていきたいと検討しています。平成25年度は、モデル的にその先生がみえる福岡中学校にタッチパネル式のパソコンを入れる作業に入っています。今後、特に小学校でパソコン教室へ行かなくても自分の教室に持ち運びでき使えることを検討しています。

【松田委員】バイドゥが何か悪さをするということはないとは思いますが、もう省

庁や大学に入り込んでしまっているということです。IMEだから変換ソフトで、変換するものがすべて行ってしまっていたというわけです。個人情報や子どものことなどが、それを使ったら行ってしまうということなので、きちんと気を付けていく必要があります。XPはなくなるということで、VISTAもどんどん変えていってほしい。タッチパネルについては、ウィドウズ8がタッチパネル用のようなOSになってきています。これも時代なのかなと思います。スマホでいろいろな弊害がある中、こういうのを積極的に使っていくというのは何となく矛盾があるのですが、なくてはならないものになってきているので、使い方という部分を学校の方できちんと指導していただきたいと思います。意見です。

5の文中に「防災機能」とありますが、教育委員会として食料の備蓄などの計画はありますか。

【教企課長】第一中学校、加子母中学校の体育館の改造のときに備蓄ということで毛布や食料を蓄えられるようにしています。これからも考えていきたいと思っております。

【松田委員】学校は確実に何かあったときの避難場所になるので、各学校でそういう設備をどんどん整えていく必要があると思います。

【委員長】ほかはよろしいですか。それでは、学校教育課から説明をお願いします。

〔事務局から資料に基づき説明〕

【委員長】ご意見ご質問ございませんか。田島委員。

【田島委員】1の(1)から(6)のご説明をいただきましたが、24年61人、25年67人、26年70名と限りある予算の中でかなりの努力をしてくださり、本当にありがたいと思います。これはまだまだ増員しなければいけないものですか。

【学教課長】来年度に向けて、1の指導助手につきましては、学校からの要望は55名ぐらい出てきています。これは県費で少人数指導の加配もある程度はいただけるということですので、学校にずっと県から配置される加配、その不足分あたりを市教委としてきちんと手当していくべきだと考えています。確かに学校からのニーズは増えるばかりですが、私としては増やしすぎることもまた危険だと思っています。予算の問題だけではなく、限られた人を有効に使っていくことでないと歯止めがなくなってしまいます。

【田島委員】2小学校能力開発事業の小動物ふれあい環境指導事業について、以前ウサギに関して問い合わせたところ、飼っているのは4校もないということでした。坂本小学校で事件もありました。今ウサギ以外に小動物を飼うことを奨励するスタイルなのか、縮小していくスタイルなのかを教えてください。

【学教課長】学校で動物を飼いつらい環境になってきています。今年度は、坂本小学校で飼育しているウサギ2羽が殺害されてしまうということもあり、学校で動物を飼うところは実際には少なくなってきました。ただ、こういった教室を開催

して獣医さん等に学校に来ていただき、いわゆる生命、すべてのものにある大切な命について、体験を通して教えていただくことは、貴重な機会になっております。動物自体を連れてきていただけることもあります。実際にウサギの心音に聴診器を当てて聞かせてもらうこともやっております。公立の幼保にも行っていますので、幼少期からそういった貴重な実体験をするということは家庭でもなかなかありません。大事な機会だと思っておりますので、できる限り継続したいと考えております。

【松田委員】何とかさらに充実してほしいのは国語、体育です。特に国語は、学校の国語というよりも、きちんとした日本語をもう少し子どものうちから使えるようにしてほしい。そういう研修とか、体育、体を鍛えるということを習慣付けるようなことがあるといいと非常に思います。

最近、道徳を教科にするかしないかというのもありました。点数を付けられるようなものではないと思いますが、学校の教科として時間を使ってやるというのも大事なのかもしれません。たとえば、命の尊さ、友情の大切さ、親の大切さを心に訴えかけるような音楽や講演にいたり、やはり子どもの時期に感動できるものは、大人よりはるかに心に残ると思うので、考えていってもらえるといいと思います。国語でちゃんとした言葉を話し、成人病の子どもをなくし、道徳や倫理のしっかりした子育てをしていく必要があります。学校だけではなかなかできないことですが、そういう部分をやってほしい。要望です。

【田島委員】7ページ1 学校図書館の充実のところですが、今小学校は100%という話を伺いました。中学校はまだ達成していないですね。この100%ですが、ものすごく古くて手の届かないところに置いてしまっている昔の辞書や今はもうほとんど使われていない見る人もないような本も、この100%に含まれているのでしょうか。

【学教課長】使えなくなったような古い本、子どもたちのニーズが全くないような、つまり貸し出されないような本も含めて100%では意味がありませんので、中津川市の小中学校については適正な廃棄も進めながら100%を目指してこの数年間やってきました。中学校についても平成25年度中にそういった取り組みをしながら100%の充足率を達成できるということですし、2%ずつの更新というのは、古いものは廃棄していく、子どもたちのニーズがないものも廃棄するということです。逆にたくさんのニーズがあってどんどん傷んでいくというものも更新していき、積極的に入れ替えることが可能なように予算を組んでいます。

【田島委員】本当に適正な指導をしてくださっています。100%とだけ聞くと、今までのように数字のマジックで100%になっていたときもありました。それでお聞きしたのです。

【委員長】25年度に引き続いて生徒会サミットの開催事業を新しい事業として入れていくことなど、いろいろなところで一生懸命変えていこうということを感じ、

大変心強く思っております。もう一つ、6 健康管理事業（4）に「学校生活管理指導表を活用し、児童生徒のアレルギーを調査し実態を把握」とありますが、現状をお聞かせ願いたいと思います。

【学教課長】市内の小中学校の児童生徒につきましては、健康調査等を通してアレルギーの実態をまずざっくり把握します。これは保護者からのペーパーによる調査です。そうした傾向のある子、持病等のある子につきましては、この管理票を使って学校できちんと指導方針を立て、主治医のご指導の内容もこの管理票に記載して学校に出していただくことになっております。たとえば話題のアナフィラキシーやエピペンをもっているお子さん等々、それから給食で個別の対応が必要な子については、すべて学校と私どもは承知しております。今後については、担任とか養護教諭とか管理職だけが知っているという状況は困ります。いざというときに職員がみんな知っていて、誰でもが同じ対応ができることが、命にかかわることですので必要です。そういったことにきちんと対応できる学校づくりのために、今年もすべての学校で職員研修を行っておりますし、一度やったからいいということではなく継続してまいります。

【委員長】昨年はなかった6の（4）もきちんと出していただきました。大変安心をいたしました。それでは次に教育研修所、お願いします。

〔事務局から資料に基づき説明〕

【委員長】ご質問ご意見ございましたら、お願いいたします。

【田島委員】8 ページ（2）③教育実践講座（夜学）の充実を図る、というところで「今日的な研修課題について」という文言があります。これは、たとえば教科を教えるテクニックとかだけではなく、先生が人としての心配り、気配り、あるいは情緒を引き出すような研修も課題に入れて、それを大切にしていきたいと思います。技巧に走るという言い方も変ですが、当面の教科を教えることは重視されていると思うのですが、一人一人の子どもたちに対するケアの仕方、先生自身が心をどう出していくとか、そういうことも非常に大切なことです。時間がない中だとは思いますが、重きを置いていただきたいと思います。

【教研所長】その方向でやっていかなければいけないとは思っております。ご提言ありがとうございます。

【松田委員】学校へ教育委員として伺うとそれなりの対応があるのですが、ある時、業者として花束の配達に行ったとき、ほとんど無視でした。これで本当に子どもたちに社会性や倫理を教えられるのかと。こちらがあいさつしてもできない。そういうところが非常に見受けられます。民間企業ではどこへ行ってもきちんとあいさつをする指導をしています。そういうところもぜひ先生たちもやってほしいと思います。行ったらあいさつしてほしいということじゃなくて、せめて社会人としてちゃんとしたことを指導してほしいと思います。どこの学校に行ってもよく感じます。

それが不思議なことに私立の学校に行くとそうでもなかったりします。その辺の差はすごく出ているところがあります。ぜひその辺を指導できるようにしてほしいと思います。よろしくお願いします。

【田島委員】初めての人にポケットに手を入れてお会いするというのもよくあるようです。たとえば、研修の講師にサービス業の方、極端ですが芸人さんとか、人に気を使う、人の顔色が見えるような職種の方に来ていただくのも面白いかもしれません。確かに教育関係の研修には、なかなかこういう方には来ていただけません。目の付けどころが違うかもしれないので、人の顔色、空気が読めるというのは非常に大切なことだと思います。そういう突飛な講師の方にもおいでいただけるような振り幅の大きな研修をお願いしたいと思います。

9ページの2幼児教育推進事業は去年がまず坂本が対象で、今年で2年目ですね。私立の保育園の先生方とお話をしたとき、小学校の先生たちがすごく積極的に小学校に上がる子たちの話を聞いてくれるようになったと聞きました。小学校の教諭と保育園、幼稚園の先生方がもっと交流ができるといいと思っていました。授業としてやるのは難しいかもしれませんが、研修の中で小学校の教諭と幼保の先生方が普通に話をできるようになるのが大事だと思います。友だち付き合いではないですが、言いたいことがどんどん言えるように、指摘ができるように交流ができると、非常にいいような気がします。幼保の先生方は、望んでみえるような気がしますし、もっとスムーズに小学校1年生に入っていくサポートができると思います。

【教研所長】ありがとうございました。どちらかというところに入ってくる子どもたちがスムーズに接続できるというイメージで取り組んでいるのが大きく違うところです。今までは5年生の子がどう小さい子とつながるかとか、1年生の子が生活科で小さい子とつながるということだったので、近くにある園だけ呼んでということも行われていましたが、本当にいい効果があったと思います。さらにご指摘があったように、先生方、保護者への啓発を含めて充実していきたいと考えているところです。

【委員長】ほかにありませんか。それでは、幼児教育課からお願いします。

〔事務局から資料に基づき説明〕

【委員長】ありがとうございました。ご意見ご質問ありませんか。松田委員。

【松田委員】本年度、小鳩保育園の件では課長さん以下大変頑張ってください、何とかこぎつけたということで、本当にご苦労さまでした。今後もさらに民営化は進めていかなければと思います。それについての調査研究などは、事業としてはお考えですか。

【幼教課長】今現在、子ども子育て会議をやっており、その中でニーズ調査をやっています。ニーズがどうあるかを踏まえながら、幼稚園、保育園のあり方の方向性を決めていきたいと考えております。

【松田委員】民営化によって市の財政としても浮いてくる部分があります。お金を

浮かせるためにではないですが、民間を出たからといって悪いわけでもないですし、私も民間出身ですが、そういう意味でこういうことはどんどん進めていって、少しでも別のところに予算を充てられるようなことを将来的にも考える必要があります。この辺もぜひお考えいただきたいと思います。

【幼教課長】基本的には民でできることは民ということで、公がやっていくところと役割分担しながら、今言われたようなあり方を考えてまいりたいと思います。

【委員長】ありがとうございました。ほかにございませんか。田島委員。

【田島委員】教育委員会から中津川市子ども子育て会議へ行かせていただいています。最初の会議のときに思ったことなのですが、民間の方と公立の方と両方おられて、民間の方は民間の方、公立の方は公立の方で互いのあり方を主張される部分がありました。それをほかの委員の方がちょっとびっくりされたという話を後から伺いました。なかなか連携は取りにくいと思うのですが、1年生にはどこからでも上がるわけですので、中津川の民間の方々と公営の方々が理解をし合う形は何かできていかないものでしょうか。

【幼教課長】たとえば幼保小の連携事業の中でもお互いの情報交換をやって分かり合うようなこともありますし、私どもも中保連とか、保育園、幼稚園の民間の集まりにも出席して、その中で課題についてご提案させていただいています。お互いの中でお互いの立場をよく分かり合って、そこで役割をしっかりと担っていくという形を今考えております。すぐにはなかなかできませんが、徐々にその距離は縮まりつつあると感じております。

【委員長】ありがとうございました。それでは次に阿木高等学校、お願いします。

〔事務局から資料に基づき説明〕

【委員長】ありがとうございました。ご質問ご意見ございませんか。田島委員。

【田島委員】初めて先回の卒業式に参加させていただき、阿木高校の子どもたちの様子を知ることができました。本当に子どもたちの大切な高校生活に、阿木高校の役立ちは大変なものだと思います。教育目標の2行目「有為な地域社会人を育成する」というところの「地域」という言葉はどこを指しているのでしょうか。

【阿高事長】もともと阿木高校は阿木村立から始まっています。特に地元、阿木地区を大事にしていくということで、文化祭などについては、新聞折り込みを阿木地区だけ入れて宣伝しています。

【田島委員】小学校、中学校では自分の生まれた地域を大切にするというのは重要なことですが、高校になると、もう社会に出ていくわけですから。阿木だけで生活するわけじゃなくて、日本中あるいは世界中に出ていく子どもたちを養成、育ちを助ける場所なので、ここで地域を阿木に限定してしまっているのが、私は非常に疑問です。阿木という風土特有のものが出来上がってしまっているのではないかと卒業式に行ったときも思いました。どこの社会でも通用するような稀有な世の中の役に

立つ人になるように指導してほしいと思っております。

【阿高事長】地域でいろいろボランティア活動、阿木保育園やいろいろなところで教えたりしていますので、そういう意味で阿木と言っただけで、地域社会というのは、東濃地区とかになると思います。

【教育長】岐阜県の教育ビジョンというのがあります。ここの目指す岐阜の人間像の中にも高い志とグローバルな視野を持って夢に挑戦し、家庭、地域、職場での豊かな人間関係を築き、地域社会の一員として考え、行動できる地域社会人という言葉が出てきているわけで、多分にそれを意識した目標だろうと思っています。

【田島委員】狭い阿木の地域だけの常識にとらわれないようにしていただいて、グローバルに羽ばたけるような指導をしていただけるとありがたいと思います。

【委員長】ほかはよろしいですか。それでは次に移ります。発達支援センターについて、お願いします。

〔事務局から資料に基づき説明〕

【委員長】ありがとうございました。ご質問ご意見はありませんか。田島委員。

【田島委員】発達支援センターのある区や中津川市民の発達支援センターについての理解度、また支援などは今どういう現状でしょうか。

【発支所長】市民の理解度という点では、なかなかまだピーアールの難しいところがあり、十分な理解は進んでいないかと思っています。実際につくしんぼ、どんぐりに通うまで、親さんもどういふところか分からなかったということもあります。実際通ってみて非常に子どもにとって良かったという声もたくさんあります。そういう点では年々理解は進んでいるのかと思います。いろいろチラシを作ったりしていますが、十分なピーアールもできていないのが現状ではないかと思っています。

地域との関係で言うと、地域の老人会の方やライオンズクラブさんや市役所かやの木ボランティアの方など非常に協力的にやっていただいて、地域との連携は非常に進んできていると思います。そういった点も重視しながら今後もピーアールに努めていきたいと思っております。

【田島委員】私も餅つきなどに行かせていただきますと、地域や老人クラブや市のボランティアグループの方々が、仕事を休んで餅つきの手助けに来てくださっています。何年か行かせていただいています、広がりが無いような気がします。その方たちは来てくださいますが、違う団体が来ているかというところでもないです。皆さんがまず区に受け入れてもらって、ピーアールするのは難しいことで隠したい方もおられるとは思いますが、県でもまれな施設なので誇りをもっていただき、徐々に理解を大きくしていただけるように努力していただきたいと思っています。前に移動教育委員会で、つくしんぼに通っているのが恥ずかしいとか、どうしてもそういう目で見られてしまうという意見がありましたが、つくしんぼはそういうところではないというアピールもしていってあげないと。もう少し皆さんに優しく接してもら

えるように、理解してもらえるように広げていっていただきたいと思います。

【委員長】ありがとうございました。移動教育委員会等でも田島委員の指摘のところがたくさん出ておりましたので、よろしくお願いします。

ほかはよろしいでしょうか。それでは、発達相談室、お願いします。

〔事務局から資料に基づき説明〕

【委員長】ありがとうございました。ご質問ご意見ございませんか。

今、14の課等からの説明のうち7つ済みしましたので、ここで暫時休憩とします。

〔休憩〕

【委員長】それでは、再開します。子育て政策室からお願いします。

〔事務局から資料に基づき説明〕

【委員長】ありがとうございました。ご質問ご意見ございませんか。田島委員。

【田島委員】2③民間施設を借り上げている学童保育所が5カ所あるということですが、この中に福岡の田瀬は含まれていますか。

【子政室長】含まれておりません。

【田島委員】以前訪問した時、あまりにも家屋が古くて畳も波打っていて、明日地震が来てもおかしくないところに、子どもたちがああやって集っていることを非常に懸念しました。学校の空き教室や遊休公共施設の活用と出ていますので、できるだけ安全なところに早く移してあげてほしいと思います。

6②子育てマイページで、携帯に発信しているということです。元気カードという言葉が出てきましたが、元気カードは今生きているのですか。

【子政室長】元気カードは、今カードという形では存続しておりません。健康医療課でバーコードだけは発行する機械があり、バーコードだけ発行して、母子手帳にシールを貼り付けて、これがあなたの番号ですということで管理しています。健診などを受けると、そのバーコードを読み取っていただいて、その子の情報として蓄積しています。

【田島委員】そうすると、自分の意志によって登録するものではないのですね。もう生まれたときには登録されてしまうというものなのですね。

【子政室長】そういうものではありません。母子手帳を交付するときに、健康医療課の職員がチラシやパンフレットを配って登録をお勧めします。登録するかしないかは本人の意志になります。自動的に登録するものではありません。

【委員長】ほかはよろしいですか。松田委員。

【松田委員】少子化対策かもしれませんが、病気のお子さんを預かって保育できる病児保育はできないかなと。確か可児市で桜井先生が病院併設でやっていらっやいますよね。今本当に少子化が叫ばれていて、子どもが病気だとお母さんが仕事に行けないことへの支援の一つになる気がします。市民病院の空いたところがあればそこを使わせていただくとか、何とか共働きの家も支援できるよう、親も子どもも

安心できるところを作れるといいと思います。関係部署の方とお話ししていただけるといいと思います。

【子政室長】病児・病後児保育につきましては、岐阜県下で病児保育所が設置されていない郡部は多いですが、市としては下呂市と中津川市だけということをおっしゃっておりまして、ぜひ中津川市も進めてくださいという県からの意向もあります。24年度に病児・病後児保育についてのアンケートを少子化対策課のときに取り替えています。病気のときぐらいは親がみるのが当然だと言うご意見や、そんなときぐらいきちんと休める職場づくりも必要だとか、ぜひ作ってくださいといろいろなご意見がありました。こちらへ移ってきて「子ども・子育て新制度」を進めていくということになって、その対象事業の中に病児・病後児保育が入っています。子ども子育ての中で考えていくということで、ニーズ調査を年末にかけて行いました。今集計作業中ですが、その中に病児・病後児保育に関する設問をいくつか入れています。そのニーズも結果も見ながら、子ども子育ての中で考えていきたいと考えております。

【委員長】ありがとうございます。ほかによろしいですか。それでは次に生涯学習スポーツ課、お願いします。

【生ス課長】生涯学習スポーツ課のところですが、順番としては去年の資料の順にしたいということで、まず生涯学習の部分をここで上げさせていただいております。

〔事務局から資料に基づき説明〕

【委員長】ありがとうございます。継続ということで、ちょっとほっとします。ほかにご意見ご質問ございませんか。田島委員。

【田島委員】（2）2「子育て親支援専門講座の開催」とありますが、これは今までやっていますか。

【生ス課長】これは今年度から始めた事業で、親の子育てに対する不安を取り除くような講座、横文字でいうとノープロBLEM講座という講座を開設しています。

【田島委員】子育てをしている親の不安を取り除くわけですね。私は違う意味で取って、親の子育てモラルなどを支援して改善するのかなと思ってしまいました。

【委員長】ほかによろしいですか。それでは続いて、中央図書館についてお願いします。小林図書館長。

〔事務局から資料に基づき説明〕

【委員長】ありがとうございます。いろいろと新規で考えておられます。ご質問ご意見等お願いします。松田委員。

【松田委員】大工のボランティアの方というのは、団体ですか、個人ですか。

【図書館長】大工さんボランティアは団体です。現在7名ほどで活躍しておられる方は3名ぐらいです。皆さん専門家ではなくて日曜大工さんの存在ですが、だんだん腕を上げてまいりまして、どういう注文にも応えてくれるような形で今サポート

いただいています。

【松田委員】木工関係、大工さん関係などの実際活動している団体もあるので、必要ならそういうところにも話ができます。多分ボランティアでいろいろなことをやっていただけます。もし必要なら私から声をかけますのでおっしゃってください。

【委員長】よろしくお願いします。ほかによろしいですか。田島委員。

【田島委員】5（5）に市読書サークル連絡協議会とあります。これもボランティア組織だと思うのですが、最近気になるのが年齢層です。下支えをしてくださる大切な方々で、かなり動きはスムーズでいい方々だという話を聞いてはおりますが、ちょっと年齢が高くなっておられるようです。こういうところをテコ入れと言いますか、助言をしながら、できるだけ若い方を入れて思いを存続していけるようにしていただくのも図書館の仕事だと思います。

【図書館長】高齢化が進んでいるという団体の方々のお声が大きいです。18日、映画「じんじん」上映のときにトークショーを行います。これは読書サークルさんが主体となってやってくれる事業です。今回、中津川市の高校5校のそれぞれの代表1名が、大地さんのお相手をいたします。このことや先ほど言いましたジュニアボランティア養成講座を通して、世代を超えた交流から勧誘をしたりして平均年齢を若くしていきたいと考えています。

【田島委員】仲間同士で進め合っているのはとてもいいことで、新しい芽も出てきたということですが、人と人とのつながりですので、1つの絆がきつくなりすぎてしまって、ほかの心ある方がなかなかずっと入れない状態だと非常に、そういうところが中津川の公民館を使っているほかのサークルにも見受けられますので、できるだけ風穴を開けながらというお願いをしたいと思います。続けて、1（3）2「公民館図書コーナーの活用支援」ということで、図書コーナーを作って監督している人がいないということですよ。そこに人がいない中で公民館の図書コーナーを充実していただくというのは非常にありがたいことで、性善説に則って行われていると思います。それで、今私の知っている若い30代の親さんに、以前も話したことがあるのですが、活字を踏むということ、また、本に物を書く、枕にするなど、活字に対する畏敬の念とか、本は大事にしなければいけないという教えがだんだん身近でなくなっている中で、本がなくなるとか本を汚すということにもつながっていく気がします。ですから、図書館は基本的に本の大切さをできるだけたくさんの方に知っていただけるように進めていただけるとありがたいと思います。

【図書館長】今年度、図書館には小学校から大変見学がまいました。聞くところによりますと、2年生の指導要領の中に図書館見学が入っているということです。それもありまして昨年の5倍ほどの児童さんが見学に来ています。その際、基本的なオリエンテーションを行っております。見学だけではなくて、本と対峙する姿勢のあり方、学校図書館や公共図書館の違い、活用の仕方、できる限り説明を加えて

見学会を行っています。また、公民館には開放しておくとな本がなくなるから、いたずらをされるからといって、現状、鍵をかけて使えないような状態のコーナーや室があります。でも、開放して市民のモラルも上げていくような、そういう意識で図書館の活用を啓蒙していかなければならないと私自身は考えています。ライオンズクラブから i p a d を 1 2 台も寄贈していただきました。これに関しましても、地域に分配して自由に使ってもらいたいと考えていまして、その使い方の約束事なども今決めているところです。本当に性善説に則ってですが、教育の投資とってみんなに開放を図っていきたいと考えております。よろしくお願いいたします。

【委員長】ありがとうございました。ぜひそのような方向で進めていただきたいと思います。それでは次に文化振興課、お願いします。

〔事務局から資料に基づき説明〕

【委員長】ありがとうございました。ご質問ご意見をお願いします。田島委員。

【田島委員】1（2）「第7回前田青邨大賞」だけではなく、熊谷守一も中津川の目玉的なすばらしい大賞なのですが、市役所の職員の方々が、これが実施されていることをご存じなのかすごく疑問です。横のつながりということです。非常に大事な中津川の偉人なのに、これを知らない人が市役所の職員に結構おられます。徹底できないでしょうか。

【文振課長】職員への情報等に関しては、市役所内のネットワークなどありますので、そういった部分でもお知らせはしていたと思います。まだそういった状況であれば、少しピーアールの方法を考えながらやっていく必要があるのかと思います。

【田島委員】3（2）演劇キャンプについて、ある筋から26年度は継続できないような話を聞いたのですが、そういう情報は入っていますか。

【文振課長】25年度まで5年間、日本演出者協会が主体となって進めてきておりましたが、少し距離をおきたいという申し出もありまして、主体としては演出者協会ではなく、中津川の実行委員会が主体となって進めていき、進めるに当たっては演出者協会の協力をいただきながらやっていきたいということです。名前についてはどうなるのかという部分はあります。市民の皆さんにこういった芸術文化を勉強していただく機会になるよう進めていきたいと思っております。

【田島委員】本当にリニアが14年後に来るということで、中津川の魅力を東京、中央の演劇の方々がまず先に見つけてくれた演劇キャンプだったんですね。それで非常に惜しいと思ひまして、中津川の魅力、常盤座、明治座、蛭子座で歌舞伎というものに着目して、またそういう芝居小屋に着目していち早くやってくさったので、できるだけ形は変われども発展していったって、あとは市民の方々が上手に受けて、皆さんで盛り上げていただけるようになると嬉しく思います。

【文振課長】ご意見ありがとうございました。演出者協会主体ではありませんが、応援はしてくださるという話をいただいておりますので、そんな中で継続していきたい

いと思います。

【委員長】ありがとうございます。ほかによろしいですか。

今年度、熊谷守一大賞の審査がありまして、その講評会を見させていただきました。審査委員長さんと描いた画家の方のお話を聞かせていただくと、選ばれた櫃田先生の意図も分かりますし、描かれた人のことも分かって、なかなかいい会になったと思いました。こういった文化的なものについては、参加しなければ分からないところがありますので、今のお話にあったようにできるだけ続けていきながら広げていくということをぜひお願いしたいと思っております。それでは、鉾物博物館について、お願いします。早川館長。

〔事務局から資料に基づき説明〕

【委員長】ありがとうございました。ご質問ご意見ございませんか。田島委員。

【田島委員】私が最初に教育委員になったときに、先輩委員に稼げる博物館や資料館でなくてはいけないのではと質問したところ、そういうものじゃないから市がやるんだと諭されました。いろいろな地域や市を見ますと、目玉になって稼いでいる施設を持っているところがあります。中津川の鉾物博物館は、マニアの方には垂涎のすばらしいところらしいです。稼げる市の施設というのは、いかがなものでしょうか。一昨年、維持費を何とかしないといけないのでストーブも切って節電しながらやっているという話を伺いまして、何か前向きに自力で稼いで、それで寒い想いをしないで表に出ていくような市の施設になってもらいたいと私は思っております。意見です。

【委員長】いろいろな施設をもう少し日の当たるようにしたいという田島委員の願いですが、鉾物博物館長、その辺についてはどのようにお考えですか。

【鉾館長】確かに入場料等から考えますと、なかなか稼げる博物館にはなっていないのが現実です。各館それぞれ特色がある館になっていまして、鉾物博物館でいうと、鉾物に特化した博物館は全国的にも非常に珍しく、もう少し館としてのピーアール等を考えて世の中に発信していかなければならないとは思っています。それと、苗木遠山史料館は城とセットでお城ブームもあり、25年度は非常に資料館にも来ていただけるお客さんも増えていますし、城跡にも非常に多くのお客さんがみえています。観光的な目玉にもなっていると思っています。観光部門とも連携しながら、宣伝できる所は大いに宣伝していかなければならないと思っています。

【委員長】ありがとうございました。私は個人的にですが、東山魁夷の心の旅路館が道の駅にありますので、行ったときに見ているのですが、ちょくちょく入ってみえる方がいて、場所的なメリットもあるのかとも思ったりします。いずれにしても、何とかもう少し認識をしていただけるようになるといいと思っています。

【文ス部長】先ほど冒頭で予算との兼ね合いで事業説明の難しいところがあるという話がありましたが、来年度、子ども科学館に末松安晴先生の展示品を施設を改修

して行う計画を持っております。先生にも非常に協力をいただき、光ファイバーの最初の実験道具も作っていただくということもありますし、先生がいただいたメダルの複製品を先生が作って、中津川市に置いておきたいというありがたい話を受けています。市としても何とか予算を確保し、子ども科学館で展示していきたい、先生についても、子ども科学館の地図を見せたら、その場所でもいいという了解も得ています。いい方向に進みたいと考えております。

【委員長】ありがとうございます。それでは次に、文化スポーツ施設運営推進室、お願いします。

〔事務局から資料に基づき説明〕

【田島委員】（２）２「中津川市文化協会による中津川文化会館の業務一部委託」、これは２５年度からですけど、どんな状況ですか、うまくいっていますか。

【文施室長】事務局長をはじめ５人の体制でやっておりますが、今のところは問題なく進行しているところです。

【田島委員】（２）「中津川市自主文化事業協議会」さんが自主事業としていろいろな団体を呼んだり、吟味して進めていくわけですね。その関連といたしますか、６ページの２（５）文化鑑賞事業、小学校４、５、６年生対象の芸術鑑賞会との連携は取れていますか。それとも全く連携は取れていないものなののでしょうか。

【文施室長】以前は連携していたような年もありました。できるだけ各小学校の児童生徒にまたそういったことも広めて、連携しながらやっていきたいと思っております。

【田島委員】せっかく中津川市の自主事業なので、中津川市の小学校が鑑賞に使えるように、そういうことも大事なことでと思いますのでよろしくお願いします。

【委員長】ほかによろしいですか。それでは、次に生涯学習スポーツ課のスポーツ推進の部分について、お願いします。

〔事務局から資料に基づき説明〕

【委員長】ありがとうございます。ご質問ご意見ございませんか。

ないようですので、各課からのご説明をいただき、全体を通して何かありますか。松田委員。

【松田委員】文化スポーツ関係は目玉があるんですが、予算的にきつい部分も結構あって、何とかこういうのをふるさと納税のようなものを使ってできないのかなと前々から思っています。鳥取県かどこかでは、本年度中に約１億円と言っています。ふるさと納税は県や市で違いがあるとは思えないので、ピーアールでずいぶん変わってくるのかなと。何とかこの事業についてお願いできませんかというものをどんどん発信していけるといいと思います。よろしくお願いします。

【委員長】財源の確保として、ふるさと納税を活用できないかということですが、できるだけ検討しながら発信していただけるとありがたいと思います。よろ

しくお願いします。ほかによろしいですか。

それでは、ほかにご質問等ございませんので、日程第１、議第１号 平成２６年度中津川市教育委員会主要事業について、は承認とさせていただきます。

続きまして、日程第２、議第２号 中津川市教育委員会附属機関の設置等に関する条例施行規則の一部改正について、ご説明願います。生涯学習スポーツ課長。

〔事務局から資料に基づき説明〕

【委員長】ありがとうございました。これについては、よろしいですね。資料で対照表もいただいていたので、それについて読んできていただいていると思います。ご意見ございませんようですので、議第２号 中津川市教育委員会附属機関の設置等に関する条例施行規則の一部改正について、は承認とさせていただきます。ありがとうございました。

議事については以上でございます。次回の定例会は２月１３日午後１時３０分からにぎわいプラザ４－１会議室で開催します。

以上で平成２６年第１回中津川市教育委員会を終了します。ありがとうございました。

【閉 会】